

市内3大学学生と市長との懇談会概要

日 時：令和4年11月15日（火） 午後4時30分から午後6時まで

会 場：十文字学園女子大学7号館6階会議室

テーマ：定住人口を維持するための取組及び転入者数の増加を促進するための取組について

参加学生

No.	大学名・学部・学科・学年	氏 名
1	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年	今林 奈津美
2	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年	岡野 弥生
3	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年	松下 愛
4	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年	佐野 桃羽
5	十文字学園女子大学 教育人文学部文芸文化学科3年	小川 七菜
6	十文字学園女子大学 教育人文学部文芸文化学科3年	小山 七聖
7	十文字学園女子大学 教育人文学部文芸文化学科3年	永峯 羽佳乃
8	立教大学 コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年	川嶋 みずか
9	立教大学 コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年	今井 孝太郎
10	立教大学 コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年	安尾 拓磨

大学関係者

No.	大学名、所属、役職	氏 名
1	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 准教授	篠崎 健司
2	跡見学園女子大学 地域交流センター長、准教授	土居 洋平
3	跡見学園女子大学 地域交流センター 地域交流課長	中村 英昭
4	十文字学園女子大学 教育人文学部文芸文化学科 准教授	星野 祐子
5	十文字学園女子大学 総務広報グループ長、総務部長	柳澤 貞夫
6	十文字学園女子大学 地域連携推進センター 地域連携コーディネーター	名塚 清
7	立教大学 コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科 教授	原田 晃樹
8	立教大学 新座キャンパス事務室 事務長	田代 真美
9	立教大学 新座キャンパス事務室 課長補佐	小瀬 典明

市出席者

No.	所属、役職	氏 名
1	市 長	並木 傑
2	教育長	金子 廣志
3	総合政策部長	永尾 郁夫
4	総合政策部秘書広聴課 係長	高山 裕一
5	総合政策部秘書広聴課 主任	猪鼻 佑己

○跡見学園女子大学

観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年

今林 奈津美、岡野 弥生、佐野 桃羽、松下 愛

(提言者)

3大学に通っている学生数に対して、学生の新座市在住者は比較的少なく、卒業後も住み続ける学生も少ないものと思われます。また、1万人を超える大学生が2年間又は4年間、新座市に通っていますが、多くの大学生は駅から大学に直行し、帰りも自宅に直行しています。多くの大学生が通っているにもかかわらず、ほとんどが市内で活動することも少ないため、大学生の多くは新座市に対して、特に良い印象を持つことなく、卒業してしまうのではないのでしょうか。もし、新座市に対して良い印象や、新座市で大学生活を過ごして良かったという経験ができれば、将来、居住地を選択する機会が生じたときに、居住地選択の強い要因になると思います。こうしたことから、次のとおり提案します。

まず一つ目に、街の中に出かけるきっかけづくりとして、観光系の学生によるツアーの実施を提案します。跡見学園女子大学や立教大学には観光系の学部があります。そこで、それらの学部には在籍している学生が企画・案内するツアーを実施します。新座市の景色のいい場所を巡ったり、市内のおいしいスイーツやランチが食べられるお店を紹介したり、各大学を案内するツアーなどが考えられます。

これによって、学生同士の交流が生まれるとともに、観光スポットやグルメの情報をすることで、市内で時間を費やす要因となります。また、観光系の学部の学生にとっては企画・運営のマネジメント力が養われます。観光系の学部に限らず、他学部の分野を生かしたツアーも可能だと考えます。

二つ目に、多くの学生が利用するJR新座駅周辺に、学生が自由に利用できる交流スペースの開設を提案します。授業までの時間や帰宅までの時間を市内で過ごすきっかけを創出するもので、3大学学生の情報交換、たまり場となります。施設運営のため、3大学で運営委員会を立ち上げ、施設利用の条件、ルール、使用料金等について検討します。新座市には設備や場所の提供をお願いしたいと考えております。

これによって、学生は空いた時間を活用することができる、他大学の学生と交流ができる、新座市について知るきっかけとなります。先ほど提案した市内ツアーや大学祭等のイベント告知も可能です。さらに、電光掲示板で電車・バスの交通状況や大学の休校案内を知らせることも考えています。

大学時代を過ごした新座市に対して、「新座市っていいよね」というかけらを

つくることで、転入人口の増加につながり、また、将来住みたいまちとして定着していくことは、定住人口の維持・増加につながっていくものと思われます。

(市長)

ありがとうございました。「新座市っていいよね」というかけらをつくる、というのはとても良い表現だと思います。

(立教大学 川嶋さん)

ハード面の提案がありましたが、費用捻出は今後の課題と感じました。また、新座駅前のどの辺りのスペースを想定しているのかが気になりました。

(市長)

跡見学園女子大学さんの御提言を受けまして、早速、良い場所がないか探しました。現在、新座駅北口にある旧新座駅北口土地区画整理事務所が空き家になっております。ぜひ3大学で企画して話を進めてもらえれば、新座市も協力したいと思います。

(十文字学園女子大学 小川さん)

十文字学園女子大学には観光系の学部がないので、とても新鮮な提案でした。駅と大学の往復になってしまい、お店を知る機会が少ないが、そういったツアーに参加することで市を知るきっかけになるのはいいと思いました。

(立教大学 今井さん)

3大学の交流の場を作るというのは思いつかない提案でした。具体的にどういった交流を考えているのでしょうか。

(跡見学園女子大学 佐野さん)

各大学の学園祭などのイベント、サークルの告知など、お互いの大学情報を交換することから始めてはどうかと考えています。

(市長)

まずは各大学の学生会が中心となって交流を始めてみてはどうでしょうか。

(跡見学園女子大学 佐野さん)

学生代表として、まずは学生会を通じて交流を始め、いずれ学生会以外の学生同士が知り合えればと思います。

(市長)

3大学が交流するに当たっては、市がその機会をコーディネートすることが必要になると思います。

(総合政策部長)

まずは実現したいという学生の皆さまの情熱や本気度を伺いたいと思います。
その際は、シティプロモーション課が中心となり、お手伝いしたいと思います。

(市長)

よろしくお願ひします、ぜひ進めていただければと思います。

また、跡見学園女子大学の協力による、桜の名所である跡見学園女子大学や柳瀬川の桜を楽しむ素晴らしいツアーがあります。こちらも、ぜひ継続していただければと思います。

○十文字学園女子大学

教育人文学部文芸文化学科 3年

小川 七菜、小山 七聖、永峯 羽佳乃

(提案者)

定住促進の取組みとして、若い世代が魅力を創り、発信することについて考えていきます。若い世代が新座市に良い印象を持てば、今後、新座市を住まいの候補として考えてくれるはずです。また、新座市で子育てをしている人が、子育てがしやすいという実感を持てば、今後も住み続けてもらえます。さらに、新座市で育つ子どもたちが、子どものうちから愛着を持つことができれば、将来の定住地として考えることができます。そこで私たちは、若い世代が主役となるような人がクロスする街づくりを考えてみました。

人がクロスする機会を創出するため、公民館と大学生の連携事業を提案します。新座市内には公民館が8館あります。ゼミ単位で事業を行うことで、ノウハウの引き継ぎができ、継続的な実施が期待できます。さらに、公民館利用に関心が薄い若年層の関わりが期待できます。また、異なる立場や多世代の人との交流が促進されます。大学生が関われば、新しいツールやトレンドを取り入れた情報発信・企画が可能です。オンライン配信やSNSを活用し、ICTの利活用に積極的な新座市を印象づけることで、子育て世代へのアピールとなります。

続いて、クロスすることが楽しいと思うような事業の展開についてです。大学生と公民館のコラボにより、多世代交流の場が期待できることを紹介しましたが、多世代交流の場を創るに当たって必要なことをまとめてみました。簡単に言うと、無理なく、楽しく、相互にプラスとなる必要があります。

本学を例にすると、文芸文化学科には絵を描くこと、本を読むこと、デザインが好きな学生が多く在籍していることから、クラブ活動、部活動、高齢者施設での活動が期待できます。日本語教員の資格を活かして、外国籍の方の支援にも関わられます。

社会情報デザイン学科には、ICT、メディアなどに関心がある学生がいることから、プログラミング学習の支援、高齢者のスマホ講座のサポートなどが考えられます。また、写真の撮り方講座などを出発として、私の推し“にいぎ”という写真展の企画、ネット上での共有といったイベントも考えられます。

食系3学科の場合は、産学官民の連携を考えることができます。例えば、とれたて畑の野菜を活かしたレシピを大学生が考案し、それを地域のパティスリーや飲食店が商品化します。そして、地域の方がイベントに参加して商品を購入した

り、実店舗を訪れたりといったことが考えられます。こうした産学官民の企画は、市のイメージアップにもつながります。

また、地域と関わりたい大学生と、サポートを必要としている地域をマッチングさせるため、「大学生サポーターバンク」の創設を提案します。大学生は自分の好きなことで地域の方と関わります。市は地域のニーズを受けて、大学生をスカウトします。将来的には、サポーターバンクの運営に大学生が関わることで、継続的な事業となることが期待できます。

私たちが提案した内容は、新座市に縁がある若年層の全てが関わる提案でした。定住人口の促進には、今、関わっている人々の満足度を高めることが大切になると考えます。今日の提案が少しでもお役に立てたら嬉しいです。

(市長)

ありがとうございました。大学の活動内容も良く分かりました。産学官民の連携、大学生によるサポーターバンク、公民館と大学生との連携等について御提案を頂きました。

(立教大学 安尾さん)

公民館とのコラボは非常に魅力的だと感じました。跡見学園さんが提案した交流スペースとコラボしたらいい企画になるのではと感じました。

(跡見学園女子大学 今林さん)

多世代に向けてのアプローチが面白いと感じました。公民館でのイベントを市民・学生に告知するに当たって、先程私たちが提案した交流スペースと結び付けてもらえたらと感じました。

(市長)

ゼミとの交流や産学官民との連携による学生サポーターバンクの創設について教育長からコメントを頂きたいと思います。

(教育長)

跡見学園女子大学と十文字学園女子大学の提案がクロスしたら良い事業が展開できると感じました。市内に点在する公共施設をもっと学生の皆さんに活用してもらえたら私たちもありがたいと思います。現状、公民館利用者が高齢化して貸館状態となっており、情報の発信がうまくできていません。若い世代が利用してうまく情報を発信することで、多世代の方が集まるというようなイメージチェンジが必要です。

また、市教育委員会にボランティアバンクはありますが、学生に特化したボラ

ンティアバンクというものはありません。「こういうことを他大学とコラボしたい。」というものがあれば、それをうまく活動に展開することで良いものにつながると思います。発表の中でプログラミング教室の話がありましたが、若い世代の皆さんが高齢者のICT利活用を促進してもらえればとてもありがたいと思います。学生同士が交流する際は、子どもやお年寄りなど、何かを介在することでうまくいくのではと思います。

公民館を活用する企画は何とか実現したいと思います。教育委員会に持ち帰り、皆さんのアイデアを具現化できるようにしたいと思います。

○立教大学

コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年

今井 孝太郎、川嶋 みずか、安尾 拓磨

(提案者)

子育ては情報戦?! ~知りたい情報を一括にまとめて親と子どものコミュニティを作ろう~というテーマで発表します。

まず、新座市とはどのような地域なのかということを一から調べました。都心にアクセスしやすく、緑豊かな自然の中で子育てできるということが挙げられますが、子育てに対する支援も手厚いと考えました。人口は年々増加傾向ではありますが、年齢別でみるとコロナ禍前と比較した際、9歳以下の人口が減少していることが分かります。今後、持続可能な市を実現するためには、親と子への支援を準備して子育て世代を市内に呼び込む必要があると考えました。市内保育園にある地域子育て支援センターには子育て支援コーディネーターが配置されていたり、福祉の里児童センターでは小学生向けのプログラミング教育支援が行われていたり、新座市には子育て世帯に対する多くの支援があります。では、その子育て支援がなぜ市外の子育て世帯に伝わらないのか、それは情報が分散しているからではないかと考えました。そこで、情報を一括にまとめて、伝えたい情報を知ってほしい人に届ける仕組みを作る必要性があると感じましたので、2つの施策を提案します。

一つ目は、安全マップの作成です。通学路や歩道の一部が細くなっており危険だと感じました。この安全マップを作成することで、子どもの移動がより安全になると考えます。また、この安全マップを作成する過程で、ウォークラリーなどの新たなイベントの構築や防災ラリーの実施による世代間交流など、当初の目的に加えた付加価値が生まれます。

二つ目は、情報掲示です。子育て支援施設の存在が分かりづらいと感じたため、情報を可視化することで本当に必要な人に情報が行き届くようにしたいと考えました。そこで、私たちは、新座市子育て情報一括ページの作成を提案します。掲載情報は子ども食堂、子育て支援センター、学童、保育所、子どもが参加できるイベントなどです。その際、子どもの年齢別に検索できるようにしたいと考えています。この施策の工夫点は、団体へのアクセス向上のためのプラットフォーム設置です。一方通行ではなく、市の団体側からの意見も集約することで双方向のコミュニケーションが可能となり、団体の最新の情報を得ることができます。また、公式SNSを載せることで、初めての人でも躊躇せずに参加できるよう、その場

の雰囲気を知れるようにしたいと考えています。

これら2つの施策によって、子育て世代の定住、移住を考えてもらえるのではないかと思います。

(市長)

ありがとうございました。安全マップの作成、子育てポータルサイトの開設というアイデアを頂きました。新座市で子育てポータルサイトは作ったのですが、見づらい部分がありますので、令和6年3月の市ホームページリニューアルに合わせて改良してまいります。また、安心安全な道づくりについても様々なアイデアを頂きましたので、実現できるものはすぐに進めていきたいと思っています。

(十文字学園女子大学 小山さん)

新座市には様々な子育て支援がありますが、情報をまとめるのは良いアイデアだと思いました。

(跡見学園女子大学 岡野さん)

自分が通っていた小学校までの登校ルートはすごく狭かったのですが、その登校ルートが狭いということは使っている人しか知らない情報だったので、みんなが知ることができるのはいいと思いました。

(十文字学園女子大学 永峯さん)

子育てをしている当事者にとって子育ての支援情報が届かないのはとても心細いと思うが、こういったポータルサイトがあるととても助かると思いました。また、安全マップ作成の過程を新座市内外に知ってもらえるのはとても良い企画だと思いました。

(跡見学園女子大学 佐野さん)

子育て世代に向けてアピールすることはすごく大事だと思ったのと、情報の可視化や年齢別の検索はとてもいいアイデアだと思いました。また、Instagramに「新座子育て」等のハッシュタグをつけて投稿するのもいいと思いました。

(市長)

本市では、毎年母子手帳を渡す際に、最新版の「にいざ子育て情報誌」という冊子を配っています。新座市で子育てをする際の情報が全て載っておりますので、後で御確認いただけたらと思います。

(跡見学園女子大学 松下さん)

Instagramでその場の雰囲気を投稿するのは良いと思います。ハードルが下がってイベントに参加しやすくなるのではないかと思います。